

●除草作業の実施 5月17日

当日は暑い一日で、全国では真夏日になるところもありました。こんな厳しいところを木津川玉水浜(中聖牛の設置場所)への通路の確保とワンドへの通路、そして3つのワンドの除草作業を午後から有田、播川、太田、森島さんが実行して下さいました。

3月に除草作業を実施して3つのワンドへの通路が確保でき、「これでイタセンパラの復活を目指す第2回の魚釣り大会はより多くの人の参加をお願いできるだろう」と展望が明るくなっていました。さすが1ヶ月と少々後の5月初めには、もうカラシナが人の高さまで成長していましたが、少し安心して時期を逃すと昨年のように上流への通路は切り開けなくなる所でした。摂南大学の石田先生からの連絡では、6月6日に玉水浜、6月9日に青谷浜で、研究室の学生の皆さんによる生育調査を実行するとの連絡が入っています。7月にかけて成長時期を迎えますし、雨の降り方にもよりますが、摂南大学生の調査日直前には軽く通路整備を行っておかなければならないのではと懸念しています。

●じゃがいもの花が咲いていた 5月18日(土) 参加者：金田、篠原、小川

ミツバチとシロメダカの観察会が里山の会事務所近くで開催されていたので、3名が里山農園でそれぞれの活動を行いました。気温が上昇し過ぎやすい(既に暑い?)日が増えてきたためか、里山農園で植えた野菜や自生している植物が元気に成長している様子でした。3月下旬に植え付けたじゃがいもは、薄紫色の綺麗な花を咲かせていて、楽しませてくれました。そろそろ芋が太りだす頃なので栄養を芋に集中させるために花は摘んだ方がよいとのことですが、かわいそうでできませんでした。玉ねぎは、そろそろ葉が根本付近で倒れそうなくらいまで成長してきました。収穫は近々だと思います。大きく、そして美味しくなっていることを期待したいです。他にも夏野菜がどんどん成長しているので、楽しみは増えそうです。(文：小川 芳也)



●第1回ミツバチとメダカの観察会を開催しました。 5月18日

参加応募は12家族大人14人子ども16人でスタッフ10人が定刻に全員が揃いました。司会進行役の有田さんから開始宣言がされ、山村常務理事から開会の挨拶と得手を生かしたサークルへの取組への協力依頼、ミツバチの主な二種類、メダカもキタノメダカとミナミメダカの二種類だとの話、そして飼育記録をお願いし、その発表機会の紹介がされ、全員が住所と年齢など自己紹介をしました。続いて福井さんからミツバチの紙芝居が15分間され、養蜂農家の山岡さんからニホンミツバチの特徴と苦労話がされ、セイヨウミツバチについて吉村国男さんからのお話のあと、日本と西洋両方の蜂蜜の食べ比べが行われました。11時前から待望のメダカ採りが始まりました。雄と雌の特徴の解説のあと、銘々がたも網ですくいあげ、雌雄を判断しました。用意したケースで判別をするのですが、簡単には出来ず、相当苦労をしました。また多くの網を一度に池に入れたので、池が濁ってしまい全員が満足するまでとることができなかったのが残念でした。池の周りの田圃では田植え前の作業が始められていました。この日は気温30度近くに



なると予想されていましたが、日差しが強いなど厳しい天気でした。帰りには福井さんが用意していただいた水草をいただいて帰路を急ぎました。当日は大阪天王寺や茨木市、宇治市・木津川市という遠方からの参加者がお越しでした。スタッフとして頑張っていた皆さんは、前日に木津川のワンドの草刈りをしていただいて、本日の取組み、続いて翌日はヤマトサンショウウオの現地調査という三日連続の強行軍が続きます。ご協力本当に有難うございました。

ミツバチとメダカの観察会 5月18日 感想文を紹介します

ミツバチのおはなしでは、ハチのなかで役割が決まっていることが面白いと思いました。女王バチや働きバチのことが初めて知ることばかりで勉強になりました。ハチミツの食べ比べ、巣を見たり触ったり、初めての体験をさせていただきました。より一層、こどもは ハチ、生き物が好きになったようです。ありがとうございました。

メダカとり面白かった メダカを飼うことが初めてで。子供と楽しみにしています。毎日観察しながら大切に育てようと思います。貴重な体験させていただきありがとうございました。 茨木市 6年生

ミツバチの紙芝居と巣箱の説明が分かりやすかったと思います。子供も聞きやすかったと思います。直射日光がきつかったので次回はテント等の日除けがあればよいと思います。

最近見なくなっているメダカの種類。違いを子供が分かってよかったです。メダカはダツ目の種であり本来は水質の変化にも強い魚でもあります。減少している原因を色々なところから調べたいと思います。京田辺市 4年

養蜂に興味があり参加させていただきました。来年ぐらいにチャレンジしようと思います。ハチミツの味は日本ミツバチがおいしかったです。これまでクロメダカを探していろいろなところで採ってきました。白メダカは、初めてで、とてもきれいでした。 宇治市 4年生

知らないことだらけで、いろいろ説明してくださったので、大人でもおおいに楽しめました。実際にハチミツを採っているところを見て面白かったです。ニホンミツバチを飼育するには、すごく大変だと驚きました。

こどもが自分でとり、オスメス見分ける活動に夢中になっているのが、良く分かりました。大切に育てて行きたいと思います。ありがとうございました。 京田辺市 6年生

ニホンミツバチの養蜂は、難しいときいていたので、ちゃんとできていてビックリしました。あとハチミツがとても美味しかったです。またきたいです。

来た時は沢山いたのにとるときにはぜんぜんいなかったのびびっくりしました。ヤゴもたくさんいました。京田辺市 中2

ミツバチ同様に見分け方を知り、今まで以上に生き物に対して興味をもてるようになりました。宇治田原町 1学年

日本ミツバチ、西洋ミツバチ双方に良い所があると思いました。タダ。人間にとって良いこととはかぎりません。これからの学びが、子供たちの未来の糧となることを望みます。ありがとうございました。

ニホンミツバチと西洋ミツバチの違いについて知ることができました

子供と一緒に楽しい学びの時間を過ごせました。	楽しかったです 京田辺市 13 歳
ニホンミツバチの蜂蜜がつぶつぶしていておいしかった。	たまごを産んでほしい。メダカをすくうことができて良い体験ができました。
ミツバチの働きについて勉強できて楽しかった。 天王寺区 7 歳 2 学年	大切に育てたいと思います 本日はありがとうございました



ハチミツの話をする山岡さん



ミツバチの紙芝居 福井さん



受付風景



みんな楽しく自己紹介

●ヤマトサンショウウオの現地調査（第1と第2の生息地）

5月17日はワンドの除草作業、18日はミツバチメダカ観察会そして19日はヤマトサンショウウオの現地調査で三日連続のイベントになる厳しい取り組みになりました。

これまで里山の会は桜谷先生のご指導によってヤマトサンショウウオの観察調査を続け、2007年に初めて桜谷保之先生と卵囊を見つけて成体が生育していることを確認しました。その後、成体を見つけるための取組を継続してきましたが2017年の正月過ぎに念願の成体を発見できました。その場所は厳しい環境で万一ことを想定して第2の生育場所を追い求めてきましたが、2024年3月19日に別の場所で成体と卵囊が発見されました。これで少しは安心とみられますが、ここも厳しい環境条件であります。

2007年の卵囊発見場所は湿地でしたが翌年には水量が減少して干し上がってしまいました。2017年の発見場所では昨年水路に土嚢が載せられて堰き止められる事件が発生し、昨年(23年)は導水路のトユが外され池が干し上がるなどが発生しています。こうしたことから今年の発見場所は非常に大切な場所であります。それぞれ絶滅という事態は避けられて卵囊や成体はその後に見つかりましたので少しは一安心です。しかし人的と思われる出来事が連続して発生しているので大変心配しています。この度の現地調査にあたり、公開することにもつながりかねないことになりますので慎重な対応をしなければならないと思っています。調査にご参加いただいた皆様をヤマトサンショウウオの保全監察員と位置付けて組織を結成したいと思っています。

ヤマトサンショウウオの現地調査のまとめ

現地調査 参加者 桜谷 金田 太田 播川 大村 森島 有田 野村 山村 木村 光田 吉村 開
成果 発見 幼生 **18 匹**を確認 その他アメリカザリガニ オタマジャクシ ヤゴ
実施日時 2024 年 5 月 19 日 (日) 10:00~12:00 12 名

まとめの会議の要点

出席者 桜谷 金田 太田 大村 森島 野村 山村 7 名

1. 看板設置についての賛否 全員が反対 自力運動を自覚する
2. 状況測定 測定器の購入費用を要望 水温 気温 12 月 14 日 実行報告会を設ける
3. DNA 鑑定の必要 固定物の性格を測定 浅野聡 (里山の会に来ていた) 京大准教授
4. 監視カメラの監視 データーの保存を カメラに残す データー整理が面倒さから放置
5. 獣害からの侵入防止柵設置 行政府への要望
6. メンテナンスの用具購入 スコップ 鋤 樋 行政への要望
7. 日当たり防止対策 スギなどの植樹 竹の伐採経費 ヤマザクラ等は残す
8. 結成 30 周年記念事業・発見 20 周年記念事業 ヤマトサンショウウオの観察冊子作製
9. 発表会の開催 12 月 14 日 (土) 第 5 回イタセンパラの復活を目指す会と同時開催を
10. 観察体制 観察分野担当 野村 天敵と餌 アメリカザリガニ オタマジャクシ
金田・太田 生存・調査 ヤマトサンショウウオ
行動調査 京大 マイクロチップ埋設による調査の可能性
11. 浅野聡 小林慧人 北野大輔 その他関係者による講演発表 子どもと親に学ぶ会を
12. 水路整備 農園内に水を導入 湿地づくり
13. 調査池の大きさ 長さ 18・5m 横幅 6m と 8m の瓢箪形
14. 木道の必要性 調査のための横断栈橋 ドローンの活用免許者の雇用 全景把握
購入も 多用途が考えられる
15. 記録の必要性 博物館などの実現のために資料として必要 可能な限り細かな資料

盛り上がった話題

- A 看板の設置 功罪を考えたうえでの結論 公表しない場合の協力者開発が難しくなる。
後継者育成課題が大きな課題が残る
- B 里山の会結成 30 周年記念とカスミ発見 20 周年が重ねて記念事業を行うこと
カスミサンショウウオ(ヤマトサンショウウオ)の取組記念誌の発行を 分担をして作資料作成
冊子内容 白土山 蛍観察 炭焼き 七草摘み などの写真撮影を
伝統故郷事業の取組が平然と実行されていることの大切さを

